



【対象学年・対象教科の担任の先生】

1 児童生徒の質問紙回答状況を丁寧に見ていきましょう

すでに多くの学級担任は行っていると思いますが、気になる回答が見られた児童生徒に対しては、今もそのような状況なのか、面談や観察で確認し、対応を考えていきましょう。4月当初の調査だからこそ活用しやすい面もあります。

2 児童生徒の解答状況から必要な補充指導や家庭学習の内容を明らかにしましょう

4月の調査直後に「解説」を参考に問題のやり直しを行っていると思いますが、夏休みを経て、前学年までの躓きが解消されているか、機会を捉えて確認しましょう。

【学校全体】

1 調査問題を実際に解いて、それぞれの学年や教科の指導の改善に役立てましょう

みなさんの学校では、調査問題を実際に解いてみましたか？調査問題を全教員が実際に解いて（眺めるのではなく）、自分の解答と解説資料に記載されている解答例を照らし合わせてみましょう。

- ・ 小学校第5学年までのどの段階の指導内容がどのような形で出題されているのかを明らかにすることで、今、担当している子どもたちに経験させておきたい学習活動が見えてきます。それを年間指導計画に反映させましょう。
- ・ 中学校は、調査対象以外の教科の先生方も必ず問題を解きましょう。
「学習用語を適切に使い、過不足なく筋道立てて説明する」力は、全ての教科で必要とされ、各教科で身に付けさせるべきものです。日頃の自分の授業でどのように書かせたり、発言させたり、話し合わせたりするのか、「B概ね満足できる状況」をどのように設定するのが、具体的に見えてきます。また、自分の教科の単元構想、授業展開のヒントになることもあると考えられます。
- ・ 実際に解いた後、校内研究等で、気付いたこと、学校全体で取り組んだ方がよいと思われること等を出し合い、「取組内容」や補充学習の内容に設定するなどして、指導の改善に活かしていきましょう。

2 学力調査結果の解答状況の分析から新たな授業改善の方策を見出しましょう

- ・ 『「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き』の＜全国学力・学習状況調査を活用した検証・改善の進め方の例＞(P27)を参考に、指導の改善策を明らかにしていきましょう。

「新大分スタンダード」

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成する
ワンランク上の魅力ある授業

ゴールを明確にしてブラッシュアップ

- 1 1時間完結型授業
(「めあて」と「振り返り」のある授業)
- 2 板書の構造化・板書とノートの一体化
- 3 習熟の程度に応じたきめ細かい指導 の充実



生徒指導の3機能を意識して

- 4 問題解決的な展開の授業



未来を切り拓く力と意欲を育む
そのために、まず

■「新大分スタンダード」に基づく授業

■自校の授業改善（校内研究）における
「取組内容」取組指標」の共通理解と
確実な実施